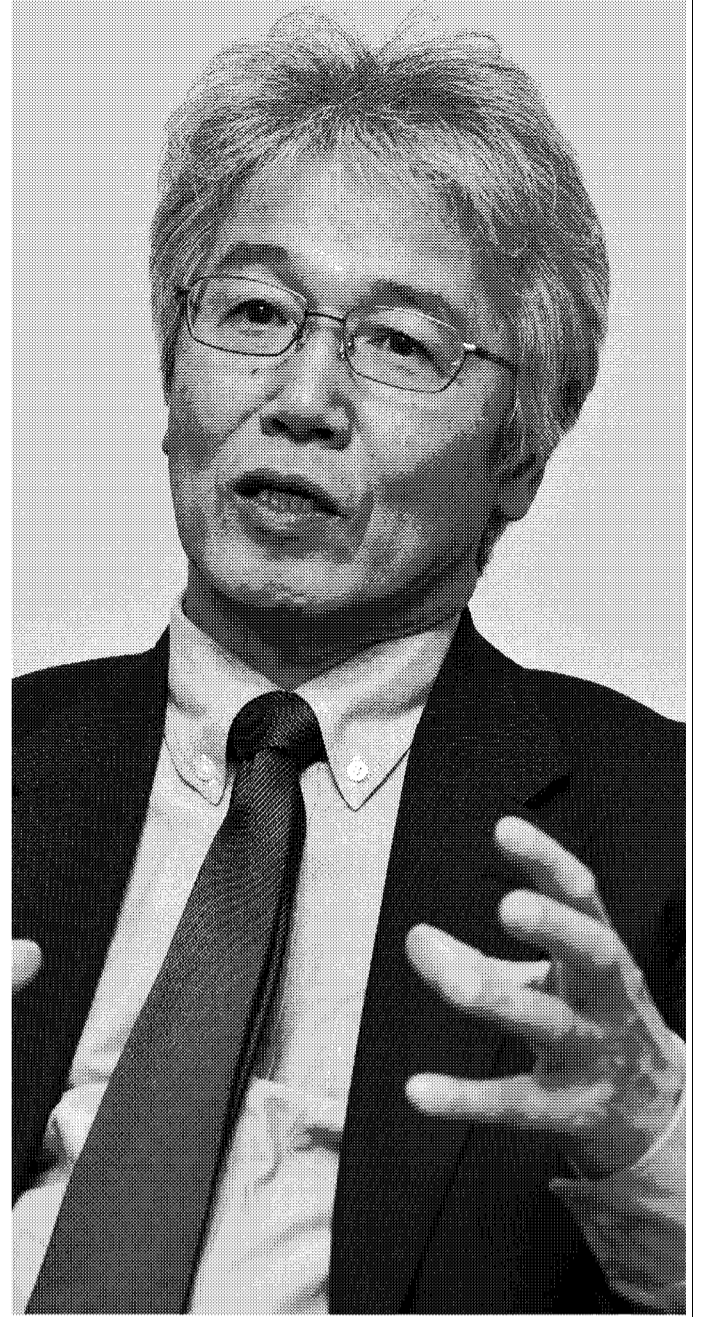


広告特集 企画・制作 朝日新聞社広告局

LEADERS AS READER

リーダーたちの本棚 vol. 23



株式会社吉野家ホールディングス 代表取締役社長 株式会社吉野家 代表取締役執行役員社長

安部修仁さん

あべ・しゅうじ

「本、特に小説などは、若いうちに読めたほうがいいと私は思います。今は仕事上読むべき活字に時間がとられるという理由もありますが、文学や映画は年とともに作品のアラが気になってきます。若い時は物語に夢中で没頭でき、私もパソコンをかきたてられました」

歴史の話ではない『文明崩壊』

普段は目を通さなくてはならない仕事の書類が膨大にあるので、時には活字にふれたくない時もあります。なので、私が本をじっくり読めるのは、主に海外出張の時です。機中もそうですが、ホテルにいる時も日本とは違い、本に集中できます。

表層や刹那の言説を超え 問題の本質を見る目を

『文明崩壊』は印象的な一冊です。本書ではイースター島やマヤ文明、グリンランドなど、過去のさまざまな歴史をトレスし、何をしたことが滅亡につながったのか、何が継続や繁栄につながったかが、詳細に解析されています。

未来に向けて、今が「分水嶺」

「未来に向けた分水嶺。2007年10月の吉野家の持ち株会社化以来、最前線から離れた安部さんが社長に復帰してから幾度も口にした言葉だ。」



1949年福岡県生まれ。福岡県立香椎工業高校卒。プロミュージシャンを目指し上京。音楽活動のかたわら、株式会社吉野家でアルバイトとして勤務。その後、音楽の道をあきらめ、正社員として吉野家入社。77年には九州地区本部部長を務め、同社創業後の83年には取締役として経営参加。88年常務取締役。92年、当時42歳の若さで代表取締役社長に生え抜きで就任。2007年10月の持ち株会社化により、吉野家ホールディングス社長に就任。10年4月より株式会社吉野家の社長を兼任。

経営再建の方法論は過去の失敗の分析から

次の本は畑村洋太郎さんの「失敗学のすすめ」です。本書には経営マネジメントや組織運営に役立つエッセンスが詰まっています。

いま信念を通すことが先々の信頼につながる

次にお薦めする本は、元外務事務次官の谷内正太郎さんの談話をまとめた『外交の戦略と志』です。私は縁あって谷内さんとお近づきになる機会がありましたが、周囲の方々を引きつける素晴らしい人格をお持ち

「現在の売り上げを維持するのにも大変な時に、2割増とまでは何を乱暴なことをと、言われました。今は平気で、お客様数は達成、売り上げは12%上がりました。マクロ環境がどうだから売れ上がったかともいいたくない。むしろ下がっていく面もある。過去、さまざまな危機に直面しながら、食生活と共に「うまい、やすい、はやく」は長い道程を歩んできた。「うちはほほは10年サイクルで転機が

安部修仁さんがすすめる5冊



「文明崩壊 滅亡と存続の命運を分けるもの」上・下 (草思社) ジャレド・ダイアモンド・著 榎井浩一・訳 前作『銃、病原菌、鉄』でピュリッファ賞を受賞した著者が、過去に起きた各地の文明崩壊を検証。そのメカニズムに環境被害、気候変動、繁栄と表裏一体の食糧・エネルギー枯渇などから迫る。

『外交の戦略と志』前外務事務次官 谷内正太郎は語る (産経新聞出版) 谷内正太郎・著 高橋昌之・聞き書き 小泉政権後から福田政権にわたり、外務事務次官を務めた谷内正太郎氏の談話集。歴史認識、領土問題、安全保障問題などが横たわるアジア諸国との課題に、使命感をもち臨んだ外交官の真実。

『マネー・インフレ・大恐慌』景気循環の経済分析 (東洋経済新報社) ツビー・ハバラー著 藤原三代平・監訳 山田正次・訳 著者は社会の支配階層の進化過程を研究したインドの思想家サーカーの理論を発展。本書ではインフレの循環や不況のパターンなどの検証から、将来の大恐慌を予測。そのための準備を説いた。

『マネー・インフレ・大恐慌』『マネー・インフレ・大恐慌』や『1990年の大恐慌』など、また更生再建論にあつた事もあり、当時、多くの示唆を受けました。パトラ氏は西洋社会の発展に社会周期の法則を見いだそうと、またインフレ・デフレーションの長期循環や過去の不況のパターンを分析して未来を予測しました。共産主義の崩壊、90年代の株式市場の大暴落など、その多くが現実になったことは驚きです。

『失敗学のすすめ』(講談社文庫) 畑村洋太郎・著 先端工学の研究者である著者は、失敗の特性を理解し、失敗から成長のための新たな知識と英知を積極的(に)学ぼうとする「失敗学」を提唱。失敗原因の分類、失敗情報の知識化などにより、致命的な失敗をなくすため何をすべきかを説く。

『牛肉安全宣言 BSE問題は終わった』(PHP研究所) 唐木英明・著 東大名譽教授であり、化学物質のリスク評価の専門家である著者は、BSE問題における「全頭検査」の「根拠のなさ」を指摘。理性的な安全より、本能的な安心に頼った対策の問題点とは、「白紙の心で読んでほしい」と安部さんはいふ。

『牛肉安全宣言 BSE問題は終わった』(PHP研究所) 唐木英明・著 東大名譽教授であり、化学物質のリスク評価の専門家である著者は、BSE問題における「全頭検査」の「根拠のなさ」を指摘。理性的な安全より、本能的な安心に頼った対策の問題点とは、「白紙の心で読んでほしい」と安部さんはいふ。

人をも動かす人になるために知っておくべきこと 13の成功戦略 渡邊美樹

20代でやっておきたいこと 川北義則

あなたの運はよくなる! 浅見帆帆子

疲れなない体をつくる 免疫力 安保徹

55歳からの一番楽しい人生の見つけ方 川北義則